

令和4年度 第2回西尾市地域自立支援協議会 会議録

日 時：令和4年10月28日(金) 午後2時～午後3時50分

場 所：西尾市役所 多目的室

欠席：倉知委員、杉浦あゆみ委員、布間委員

<参加者>

委 員：15名

地域アドバイザー 大南

部会長：糟谷地域支援部会長、藤田子ども部会長、福岡就労支援部会長、岡田権利擁護部会長

部会事務局：社会福祉協議会 岡田初美、岡田智子、中根

相談支援センターあると 伊澤、松園

めだか工房 福井、岡本

福祉課：酒井部次長、杉浦課長補佐、柵木主任主査、山本主査、原田(昌)主査、原田(英)主査

合計 33名

1. あいさつ 芳賀会長

西尾市地域自立支援協議会は18年度にできて、障害者の会議として非常に有意義な会議である。特に相談支援の3事業所(3障害)はしっかりと相談を受けとめていて、進歩している。長年やっているとマンネリ化する。新しいことができていない。西尾市でやって欲しいことを出して欲しい。

2. 議 題 会議の取り回し：芳賀会長

(1) 令和4年度西尾市障害者福祉計画実施状況について 説明：柵木主任主査

・資料から一部を抜粋して説明。

<質問：永田委員>

Q. 障害児の療育を目的とした障害児通所支援事業の適切なサービスの支給の推進についての課題において、相談支援事業所の拡充と相談体制の強化とは具体的にどのような考えか。

A. (福祉課) 計画相談は事業所の立ち上げを待っている状態。来年度から障害児の相談で1事業所の立ち上げがあるかもしれない。委託相談は市からの委託のため、来年度から各3事業所1人ずつ増員を考えている。

<質問：小嶋委員>

Q. にしお特別支援学校ができて何か変わったことはあるか。

A. (福祉課) 4月開校でまだ、それほど連絡を取り合っているわけではないが、就労支援という点で、今後、卒業する人の就職(進路)について関わっていくと考えている。

Q. 障害者手帳アプリ（ミライロID）とはどんなものか。

A.（福祉課）民間会社が提供するサービスで、スマートフォンのアプリに手帳情報を取り込みもの。障害者手帳の代わりとして運用するかはそれぞれの事業所が判断する。西尾市では、コミュニティバスや佐久島渡船の利用時に使用できる。民間のいろいろな鉄道事業者などにも少しずつ広まってきている。

<質問：田中委員>

Q. 市営住宅の連帯保証制度を無くした方が、ひとりでも多くの方が入居できるので、連帯保証制度を無くしたほうが良いのでは。

A.（福祉課）担当課へそのような意見があったことを伝える。

Q. 事業所、グループホームなどを人口単位（分散型）で計画的につくることを考えていないのか。

A.（福祉課）グループホームの建設は事業所の判断に委ねているところがある。現状、障害者サービスがマーケット化していて、採算性があるかなど、事業所がどのように判断するかにもよる。

<意見：小嶋委員>

Q. 幡豆地区は事業所数が少ないので今後の受け入れに不安の声がある。事業所を利用するにあたり重要なことは送迎であるが、そのことについても考えて欲しい。

A.（福祉課）交通手段を確保することによって利用を保証することは重要。その点は今後の課題である。

<質問：アドバイザー大南氏>

Q. 医療的ケア児の支援について社会支援が十分に無い時にどのように地域で支えていくのか、そのことについて障害者福祉計画ではどこにあたるのか。どのようなことをやっていくのか。

A. 現在の計画はH28年度作成のため、具体的に明確に記載は無いが、来年度見直しをしていく。医療的ケア児の支援については、子ども部会の中で議論していただいており、市へ提言をいただいている。その中で今後どのようにしていくかが課題である。

Q. 地域支援生活拠点の人材育成について

A. 3つの相談支援事業所がしっかり考えていただいており、その意向を予算にできる限り反映できるようにと考えている。

委員全員からの拍手があり承認。

（2）令和4年度担当者部会活動状況について 説明：各部部长

<質問：杉田委員>

Q. レスパイト支援について計画との整合性と地域の社会資源についてはどのようになっているのか。

A. (子ども部会長) 計画されているのは短期入所のことだと思うが、受け入れが十分できていない。制度的なものでなく、医療機関や事業所を使った取り組みを豊田市でやっている、そういった枠とは別に使える資源として検討していく。医療機関として成り立つために、医療的ケアコーディネーターが重要でありそのことも検討していく。

Q. 西尾市人事課で「タスカル」という障害者雇用を採用しているが、就労支援センターのことを検討していく上で、「タスカル」のような既存のものから検討していくことを考えているか。

A. (福祉課) このような事例があるので、検討していく中で活かしていけるのではないかと思う。

<質問：芳賀会長>

Q. 相談支援をしっかりとやれば、親亡き後の問題は無いのではないか。

A. (地域支援部会長) 相談につながらないケースもある。親が亡くなった後のケースと親が亡くなる前に亡くなった時にどうするかを考える2つのパターンを考えていく。

<質問：芳賀会長>

Q. レスパイト支援について

A. (子ども部会長) 今利用しているのはほとんど短期入所で、前もって予約が必要なことが多く、近くにも少ない。しかし、現状は緊急で利用したい時もある。そのため、病院の機能を使って泊まることで支援できないかそういったことを検討していく。

委員全員からの拍手があり承認。

(3) 西尾市地域自立支援協議会の組織図の見直しについて 説明：原田英主査

・地域課題の抽出のプロセスを明確にした。ケース検討会議での事例に基づき、事務局会議で地域課題を抽出、集約する

委員全員からの拍手があり承認。

(4) その他

西三河南部西圏域地域アドバイザーの大南氏から

・計画の進捗状況や部会の進捗について話を聞いて、西尾市として特徴的なことが聞けた。医療的ケア児のことも今後、部会で検討されていくということで期待している。

(事務局 原田主査)

第3回の会議は、3月10日を予定している。正式に決定次第、案内をさせていただく。

会議終了